『大旨良好』― 善いかげんの魅力

長尾　光倫（鶴ヶ島市立藤小学校四年生）

ぼくのおじいさんは山口県に住んでいます。もう七十二才ですが、まだ現役の宮大工をしていて、萩焼の名人の家の茶室を建てたり、お宮やお寺の仕事をはりきってしています。

そんな元気いっぱいのおじいさんですが、夏や冬のお休みに家族で遊びに行くときまって口にする名セリフがあります。それは、『大旨良好』という言葉です。この言葉はおじいさんの口ぐせで、ぼくの成績が上がっても『大旨良好じゃのう。ガンバレヨ！』、ぼくが大失敗しても、『大旨良好じゃ。またガンバレ！』と言って、全く変わりません。これではいったいほめられているのやら、ダメ出しをされているのやらかいもくわからなくなったので、それなら本人に確認してみようと思いました。

「ねえ、おじいちゃん。どうしていつでも何でも、おじいちゃんは『大旨良好』って言うの？　それってほめられているのか、けなされているのかよくわからないよ。一体どういう意味で使っているの？」

と、まじめ顔でぼくが聞くと、

「そうかい。そりゃあ、心配かけたのう。●●●●大旨良好ちゅう言葉はの、知っての通り、大まかによろしい、だいたい善かろうちゅう意味じゃろう。人間ちゅうもんは、ちょっとほめられるとええ気分になってもう次は無い。努力をせんごとなるんじゃ。じゃからの、『大旨良好』と言うて、まだまだこれから先頑張らんといかん、頑張ってやりなさいっちゅうことを言いたいわけじゃ。そのかわり、うまくいかんかった時にも使える。まあまあそのうちに今度はうまく行くから頑張ってみいやということだな。そんな風に日本語はなあ、善いかげんなもの言いをして、人の心をなぐさめたり、やさしゅうさとしたり、はげましたりする奥の深いバランス力を持っちょるわけじゃな。それは大工の仕事にも同じものがあるよ。」

と、ものすごく真剣な顔で話をしてくれました。

ぼくははじめて本当の『大旨良好』という言葉に出会えた気がしています。おじいさんの教えてくれた『大旨良好』からくる善いかげんなバランス感覚、良くも悪くもとれるけれど、その奥深くに心ひそかに願われる未来への希望や激励の思いは、日本語の持つすばらしい魅力だと思います。表からだけではなくその言葉の裏側やその深いところにも、さりげなく美しい人間的な心の温もりのようなものがかくされているのです。

大和ことばという世界があるそうですが、ぼくはこの『大旨良好』のような善いかげんの美しいバランスことば

こそ、真の日本人が好んだ大和ことばではないのかなと思いました。三才年上の姉が入りこみ夢中になっている日本の『古典』の世界。ぼくは現代人の使う現代語の中にもまだまだたくさんのすばらしい日本の『古典』を上回る善いかげん言葉が発見できそうで、とてもわくわくします。